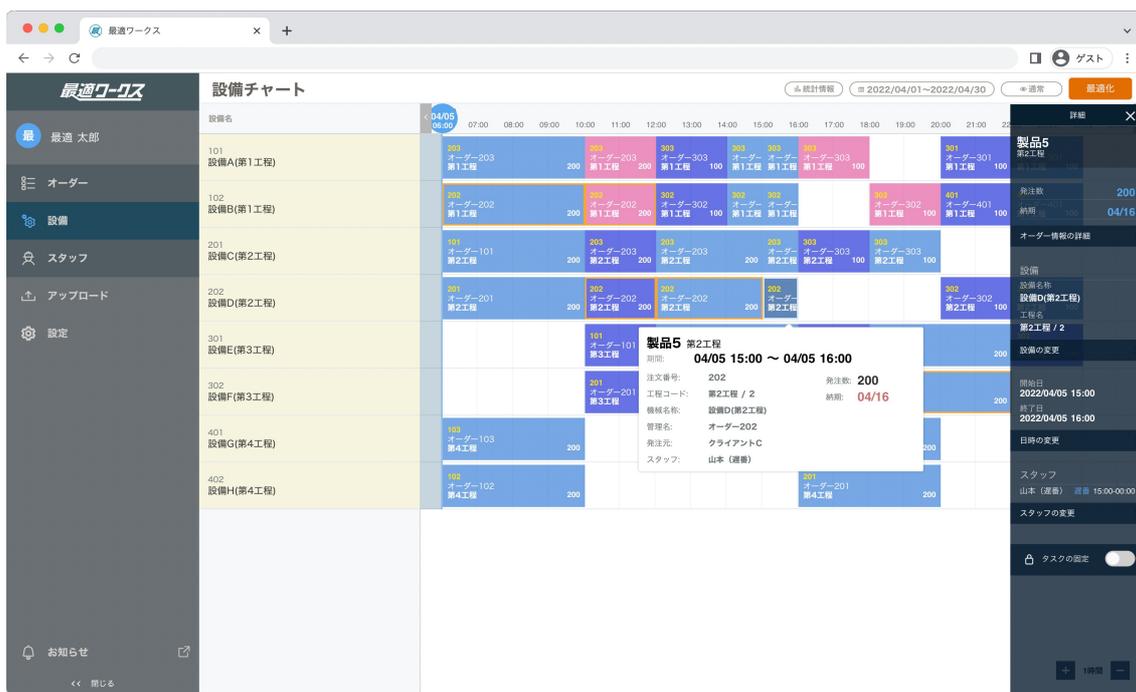


安川電機が設備稼働率向上のためにAI×SaaS生産スケジューラ「最適ワークス」を導入

通常数年かかる自動立案システム導入が、数ヶ月でスピード実現

国内製造業のDXを支援するスカイディスクは、ロボットなど産業用機械を製造する株式会社安川電機（以下、安川電機）が、生産計画業務の改善による設備稼働率向上のために製造業向けAI×SaaS生産スケジューラ「最適ワークス」を、新たに導入したことを発表します。

安川電機は今回の導入によって、少人数の計画担当者が担当していた計画立案業務の業務負荷を軽減するとともに、属人化のリスクを解消します。安定的に生産計画を作成できる体制を構築することにより、長期的な設備稼働率向上を実現します。



最適ワークス 製品画面

製造業において生産計画とは「何を、いつまでに、どれくらいの量を生産するのか」に関する計画のことを指し、納期などの諸条件を満たすように計画を立てる必要があります。

「最適ワークス」は、あらかじめ設定した条件を加味して、AIが生産計画を立案するAI×SaaS生産スケジューラです。直感的な操作で設定条件の変更や修正ができるため、属人化しやすい計画立案業務の効率化、最適な生産計画による生産性向上を実現します。

■導入の背景と期待する効果

安川電機では自動車、電気・電子機器、半導体製造、バイオ、食品、医療品、物流など幅広い産業の生産現場で使われる産業用ロボットを製造しています。製造する産業用ロボットは多岐に渡っており、それぞれに特有の工程や製造条件が存

在します。

そのため、特有の工程や製造条件を考慮し、諸条件を満たす生産計画を立案する業務自体が非常に複雑化しており、計画遅延や変更があった際には生産計画を再立案することが大きな業務負担になっていました。また、計画担当者の不在時には対応遅延が発生するリスクをはらんでいました。

こうした背景から、スカイディスクが「最適ワークス」を提案し、2022年2月より導入の運びとなりました。

最適ワークスは、特有の製造条件をデータとして設定しておくことで、担当者に代わって条件を考慮した生産計画を立案します。シンプルな操作性により、誰でも設定の変更や計画の再立案について操作可能です。これにより、複雑化した生産計画立案・修正に関わる業務の負荷を低減しながら、生産性を最大化します。また、属人化解消により安定的に生産計画を立案できる体制の構築に寄与することで、長期的な設備稼働率向上を実現します。

■高速でPDCAを回すことで、スピード導入を実現

従来のシステム導入においては構想から導入まで1~2年程度、場合によってはそれ以上の期間がかかるというのが一般的でした。

最適ワークスでは、簡単に設定変更できるところにAI技術を活用。計画担当者がアウトプットを見て初めて認識するノウハウ（暗黙知）がある前提でサービス開発されています。このため、システム導入の過程で言語化されたノウハウを柔軟に追加設定できることにより、現場の実態にあった要件定義に到達します。

スカイディスクでは高速でPDCAを回しながら、理想の生産計画立案に辿り着くスモールスタートでのツール導入を推進しています。安川電機では実際に、**数ヶ月でのスピード導入を実現**しました。

■生産計画立案業務へのツール導入の課題

製造業では近年、多品種少量の潮流により生産計画が複雑化しています。製造過程では製品ごとに異なる製造条件により、人間の頭では考慮しきれない多くの条件を考慮して生産計画を立案する重要性が増しています。

しかし、スカイディスクが製造業従事者350名以上を対象に実施した「生産計画へのツール導入に関するアンケート」によると（※1）、実に80%以上が「未導入」「検討中」「過去に検討したが諦めた」と回答しており、本分野でのデジタルツール活用が進んでいない現状があります。また、ツールを既に導入した企業でも、その90%以上が「運用に課題がある」と回答しています。

導入が進まない要因のひとつに、要件定義の難しさがあります。一般的に、生産計画立案業務へのツール導入には製造条件をシステムに設定する必要がありますが、これが非常に難易度の高い導入ハードルとなっています。

■AI生産スケジューラ 最適ワークス

最適ワークスは株式会社スカイディスクが開発・提供する、製造業向けAI×SaaS生産スケジューラ（生産計画自動立案システム）です。「いつまでに、何個、どの製品を」というオーダー情報から、AIが設備稼働・人員配置の割付け計画を瞬時に立案します。

独自開発エンジンにより、マスター設定にかかる手間を劇的に改善。製造業各社がスモールスタートできるサービスを実現しました（月額5万円〜）。

製品サイト：<https://saiteki.works/>

2021年10月 有償パイロット版 提供開始 ※順次

2022年4月 正式版 提供開始

■株式会社安川電機 会社概要

会社名：株式会社安川電機

代表者：代表取締役会長兼社長 小笠原 浩

設立：1915年（大正4年）7月16日

事業内容：モーションコントロール、ロボット、システムエンジニアリングを主力事業に、環境、バイオメディカルなど

を新規領域として展開。

従業員数：連結14,880名（臨時従業員含む）

会社サイト：<https://www.yaskawa.co.jp/>

■株式会社スカイディスク 会社概要

2013年の創業以来、製造業を中心に100社を超えるお客様と300以上のプロジェクトに取り組んできました。そこで得た知見・ノウハウをサービス・プロダクトとして世の中に還元することが私たちの使命だと考えています。「ものづくりに関わる人の力をTechnologyでBoostする」をミッションに、誰かの仕事を奪うのではなく、そこで働く一人一人の力をBoost（拡張）させるため、AIを活用したDX支援にチャレンジしていきます。

本社所在地：福岡県福岡市中央区舞鶴2-3-6 赤坂プライムビル4F

代表者：内村 安里（代表取締役社長 兼 CEO）

設立：2013年10月1日

事業内容：AIを活用したDX支援

会社サイト：<https://skydisc.jp/>

※1 生産計画へのツール導入に関するアンケート…製造業従事者 352名を対象に実施（期間:2021年10月～2022年6月）。生産スケジューラの導入状況について、導入前（未導入・未検討：35.2%、導入検討中：27.6%）が6割超。導入の前後で課題にぶつかった企業（未導入・過去に検討したことがあるが諦めた：18.5%、導入済・運用に課題がある：17.3%）が約4割を占めました。「導入済・運用もうまくいっている」と回答したのは僅か1.4%に留まりました。

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000049.000022401.html>

スカイディスクのプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/22401

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

株式会社スカイディスク 広報担当：福間 晶子（ふくま あきこ）

電話：070-3992-1353

メールアドレス：a-fukuma@skydisc.jp